



写真2 山すその斜面に宅地を造成して、建てられた住宅が多い。屋根瓦が落下し、ビニールシートをかけている建物が多く見られた。



写真3 石垣の被害（矢印の部位）。斜面に住宅を建設するため、宅地の谷側は石垣が組み立てられており、亀裂などの被害が多く見られた。



写真4 河内小学校グラウンドの擁壁崩壊。石垣が完全に崩れ、グラウンド上面にも数条の亀裂が生じていた。雨による二次災害を防ぐためにビニールシートがかけられている。



写真5 道路の亀裂。写真左側は崖になっており、その石垣が緩んで被害が生じている。



写真6 住宅外壁への亀裂。倒壊に至るまでの被害は見られなかった。



写真7 河内町役場に設置された計測震度計。今回の地震で最大の震度6弱を観測した。基礎と地盤との間に2cm程度の隙間があり、計測震度に何らかの影響を与えた可能性がある。

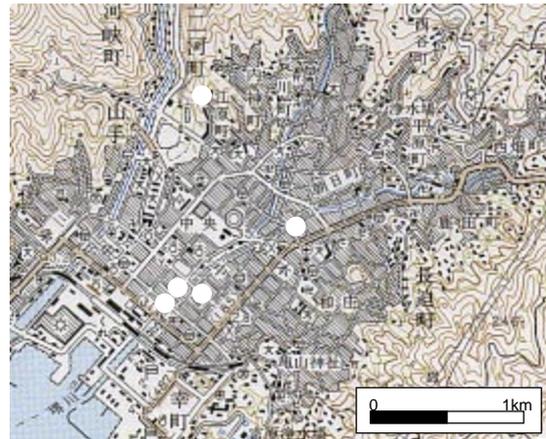


図3.3.1 呉市中央地域の地形図⁸⁾

3.3 呉市中央地域

呉市は、瀬戸内海沿岸の複数の市街域からなる人口約20万人の都市である。市街域は狭い扇状地に広がっており、海にまで迫った山々によって分断されている。以下では市の中心的地域である呉駅周辺の地域を中央地域と呼ぶ。

図3.3.1に呉市中央地域の地形図を示す。呉市の中央地域は三方を山に囲まれたすりばち状の小規模な堆積平野で、河内町同様平たん地が少ないため住宅地は傾斜地に広がり、山腹にまで至っている。この付近は風化作用が進みやすい花崗岩系統の地質からなっており、粘着力がなく崩壊しやすいといわれている。

今回の地震では市内で震度5強が観測され、死亡事故が1件（ほか、重傷者11名、軽傷者67名）、市の集計によると住宅被害は全壊44棟、半壊204棟、一部破損11,583棟（5月1日現在）である。写真8から12は呉市中央地域の調査写真である。



写真8 外壁の損傷。市街の中心部では外壁の亀裂あるいは剥離などの被害が見られた。



写真9 外壁の剥離と亀裂。